

第23回青年対策交流集會に参加して

全港湾東北地方ひたち支部青年女性部
部長 木村 貴弘

青年対策交流會議がコロナのため3年ぶりに開催され、2月24日から26日の日程で参加してきました。

青対では、全港湾中央本部 鈴木誠一執行委員長からのオルグ「全港湾の歴史」、全国港湾真島勝重執行委員長から「原子力建設阻止のたたかいから学ぶ」の講演をしていただきました。またオルグ、講演後に分散会を行い、そこで東北地方での行動、フクシマ連帯キャラバンについて触れさせていただきました。鈴木誠一執行委員長のオルグでは、港湾運送事業法や港湾労働法また港湾の雇用の問題があげられました。若い世代には今の港湾の魅力が伝わらなくなっていると感じました。様々な職種がある中で給料の面を含めユーチューバーやゲームクリエイターなどの職種が若者に人気になっています。今回の春闘また港湾の魅力を探し、伝える努力、若い世代に魅力ある職場と思ってもらえる行動をしなければならないと感じました。

真島執行委員長の講演では、東北電力が新潟県巻町に原発建設計画を公表し、その後35年間の壮絶な戦いの話を聞きました。原発反対運動をしているからわかりますが、脱原発運動をして今すぐに原発がこの日本から無くなることはない。無くすには長い年月がかかる。労働組合だけが騒いでも、地域運動だけでもダメ。最後は地域の人達が立ち上がらなければ何も変わらないと教わりました。そのため、東北では毎年、原発事故を風化させないようにフクシマ連帯キャラバンを行っています。地域の人を立ち上がらせ、もう二度と悲惨な原発事故を繰り返さないためにも、反核、脱原発に取り組んでいきます。

分散会では座長を務め、キャラバンの説明から入りました。キャラバンを毎年行われる沖縄平和行進のように全国区でやっていくため、今の福島現状を広く知ってもらおう努力と行動を続けていきます。沖縄平和行進のように毎年、全国区でやらなければなりません。そのため行動を広めていく努力をします。何事にも落胆せず、やり続ける、決して断念しない、もちろん落ち込む時もあるがそれを乗り越えられる人間になりたいと思いました。

最後に中央本部からのお題があり「労働組合の理想」と「夢」でした。青年部の意見、夢を今後の業側との交渉に繋げていきたいと話していました。いままで私たち青年部の意見、理想、夢なんて、交渉につながるなんて考えもしませんでしたし、理想は理想とっていました。いろいろな理想を全国の仲間と語り合ううちに現実にした気持ちになりました。今後、理想を現実にするための仲間と共に行動をしていきたいと思いました。同じ気持ちを持つ全国の仲間と会って、目を見て話して、有意義な青対となりました。